

的外

みのる法律事務所
令和8年8月第436号



みのる法律事務所
弁護士 千田 實
〒021-0853
岩手県一関市字相去57番地5
TEL: 0191-23-8960
FAX: 0191-23-8950

い な べ ん だ べ ん く
田舎弁護士の駄弁句 (217)



よわ ひと すく く に やく
弱き人 救うことこそ 国の役
ひと ころ ま ぎやく みち
人を殺すは 真逆の途



令和8(2026)年8月1日

い な べ ん ち だ み の る
田舎弁護士 千 田 實

この世に生み出されたら、誰だって幸せな人生を送りたいと願うのは当たり前です。ですが、それができない弱い人がいるのです。生まれながらに肉体的、精神的に弱く、能力が低い人もいます。ですが、それはその人が望んだものではないのです。運が悪いのです。

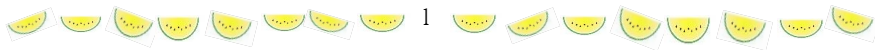
戦争の影響で職を失い、父はやりたい仕事ができず、子供の目から見ても気の毒な生涯でした。環境が悪くて、思うような人生を送れない人もいます。

弱い人、困っている人を救うことこそ、国の役目です。国家という組織は、弱い国民、困っている国民を救うためにあるのです。国家は、国家を豊かにするためや、国家を強くするためにあるのではないのです。弱い国民、困っている国民を救うためにあるのです。

高市首相は、「日本を富める国にする」とか、「日本を強い国にする」とは言っていますが、この考え方は間違っています。国は弱い国民、困っている国民を救うためにあるのです。

「日本は戦力を強化して、トランプ大統領の下でアメリカといっしょになって戦争をする国にする」という高市首相の考え方は間違っています。国は戦争をするためにあるのではありません。国民を戦場に送って、殺し合いをさせるためにあるではありません。そんな国は国民にとっていらない国です。

国は弱い国民、困っている国民を救うためにあるのです。高市首相は、真逆な方向に日本という国を導こうとしています。こんなことは、主権者である国民は、絶対に許してはならないのです。



あれこれと ^{りくつ}理屈もあるが 気持ちあり
^{め ぎ っ ね}牝狐のような 首相は嫌い



令和8(2026)年8月1日

い な べ ん ち だ み の る
田舎弁護士 千 田 實

嫌い!!

これまで高市首相の間違いをいろいろな面から、誤っていることを理論的に説明してきました。高市首相に対して理屈で負けないように、理論武装をしてきました。

高市首相の憲法観は誤っています。それは高市首相の歴史観が誤っているからです。高市首相の憲法観、歴史観が誤っているのは、高市首相の価値観が誤っているからです。さらに突き詰めていくと、それは高市首相の人生観に基づくことによるものと思われます。

理屈はそういうことになりますが、理屈の他にも人間には感情があります。好き嫌いもあります。牝狐のように見える高市首相は好きになれません。はっきり言って嫌いです。

そういう感情はどこから湧いてくるものかは、まだとことん突き詰めてはいませんが、高市首相のことは好きになれず、嫌いと言い切ることができます。理屈ではなく気持ちです。

理論的には、これまでの駄弁本で高市首相の考え方には賛同できず、高市首相の考え方が間違っているということをくどいほど述べてきましたが、今回は理論的なこととは別に、牝狐のような高市首相は感情論として好きにはなれず、嫌いだということをあえて申し上げたいのです。

もっとも高市首相は、「あんたなんかに、好かれなくても結構。そもそも問題外」などと笑うだけでしょうが……。ですが、この気持ちこそ、支持率にひびくことになると確信しています。「いつまでもあると思うな高市支持」ということもありそうです。

新 刊 書

『警鐘－危険を知らせたいのです－』シリーズの ご 案 内

第8話

『してはならない、させてはならない(その1)
高市首相の憲法9条違反行為』

第9話

『してはならない、させてはならない(その2)
高市首相の憲法9条改定行為』

第10話

『理論も大事ですが、気持ちも大事です』

事務所便り『的外』の前号(435号)といっしょに、『警鐘－危険を知らせたいのです－』シリーズ第7話『高市首相は、日本を戦争のできる国にしようとしています』を謹呈させて戴きました。高市首相の言動には、日本をトランプアメリカ大統領の下で、戦争のできる国にしようとしているような危険が感じられ、警鐘を鳴らしました。

いま、その後に続く前記3冊の『警鐘－危険を知らせたいのです－』シリーズを印刷・製本にまわしていますので、近いうちに発行できるものと思います。予めご案内しておきます。

発行でき次第、この事務所便りをお読み戴いている皆様には、謹呈させて戴きたいと考えています。次回、令和8年8月29日の研修会までに配付することは難しいと思いますが、その内容は、著者の私がよくよく知っていますので、次回の研修会では、これらの本の内容を話させて戴くつもりです。

国民一人ひとりの気持ち^{てかす}が大事なのですが、この気持ちというヤツは厄介^{やっかい}というか、手数がかかってめんどうなものです。これを上手にコントロールしなければなりません。どうしたらよいかも考えてみたいのです。

『研修会』と『いなべん塾』のご案内

於:SWS東日本ビックホール一階 1F 小ホール
(一関文化センター)

【第9回 研修会】

令和8(2026)年8月29日(土) 10:00~12:00

【第4回 いなべん塾】

令和8(2026)年9月26日(土) 10:00~12:00



8月29日の第9回研修会では、「一人ひとりの気持ちが大事です」ということを話したいと考えています。人間の気持ちは、計り知れないものです。人間は気持ちによって行動を起こすものであり、戦争も人間の気持ちによって起こされるものです。

人間の気持ちは、それほど大事なものですが、そのコントロールは難しい面もあります。しっかりとコントロールしないと国家によってコントロールされてしまい、戦争に走ったりする危険なものでもあります。

民主主義国家は、国民の気持ちで政治が行われるのですが、国民の気持ちがコントロールできなくなり暴走すると、ナチスドイツや、戦前の軍国主義日本国家のように、戦争に突っ走る国になってしまうこともあるのです。

主権者である国民の気持ちによって、国の政治は決まりますが、それだけに主権者である国民は、気持ちを上手にコントロールしなければならないのです。

国家も個人も同じ面がないとは言えません。気持ちをいかにコントロールし、戦争や夫婦喧嘩をしないですませるかの方法を考えてみたいのです。

次回の研修会では、気持ちを大事にすることと、気持ちのコントロールが必要なことと、どのようにして気持ちをコントロールするかということを中心に話し合ってみたいと思います。

